

棉の栽培方法

土づくり

4月中旬、10aあたり醗酵鶏糞(15kg入り)30袋、棉は、弱酸性から弱アルカリ性を好むため土壌 pH6.8~7.7 くらいにするのが望ましい。そのために粒状消石灰を 15~20 袋(15kg 入り)を土壌 pH の様子をみながら散布して、その後耕運する。鶏糞は、散布すると熱が出る事があるので散布後 5 日くらいまでは、播種しないようにすること。

種子の播種前処理 (以前行われた方法、しなくても良い)

種子を真水に 4~6 時間程度浸けて、人差し指と親指で摘んでも簡単につぶれない程度になるまで水を吸収させる。その後ザル等で水を切り、草木灰(草、木等を燃やして灰にしたもの)をまぶして軽く揉み込み種子にコーティングする。まぶす量は、種子が乾かない程度とする。

播種(種まき)

4月下旬~5月上旬までに**播種**を行う。畝間 40cm 以上(耕運機等での除草や収穫作業がしやすい間隔)、株間 30cm 以上(隣同士の横枝が当たらない間隔)で播種する。1か所に3粒、種子同士が重ならないように1~2cm程度の深さに種子を入れ覆土する。

追い播き作業

播種後1週間~10日たっても、播種した3粒のうち1つも発芽しない場合、もう1度芽が出ていない場所に播種しなおす。

灌水

表土が乾いたら行う。梅雨前までは、特に気をつけて行うこと。花が咲くころは、あまり必要ないが、コットンボールが付き始めたら、降雨が少ない場合、葉がしおれない程度に必要。

害虫駆除

発芽して双葉が出たら、新芽と葉の裏を中心に**アブラムシの害**が出やすいのでよく観察し潰すなどの害虫駆除をすること。本葉が何枚か出始めればアブラムシの害も少なくなってくる。

間引き

発芽して 15cm くらい伸びてきたら茎が太く葉も大きな健全なものを1つ残し、間引きするものは、地面のすぐ上をハサミで切り取る。(棉は主に直根が多く横に伸びる根が少ないため抜き取る時に残す方の根を傷める危険性があるので間引するものだけをハサミで切り取る。)

追肥

本葉 4~5 枚の時期に、油かす(長さ 3cm くらい直径 1.5cm 程度のペレット状 4kg/袋入り)を株まわりに 3~4 粒程度を目安に与える。

除草作業

棉の株が草に負けてしまわないように棉より草丈が高くなる事が無いように適宜行う。

摘芯

主幹部の頂芽部分を摘み取る作業である。アジア棉の場合あまり行わない方が良い。摘芯する事で横枝や腋芽が伸び、花芽がたくさん付き過ぎることによって1つ1つのコットンボールが小さくなり、種子も繊維長もあまり良くない綿ができる可能性が高くなる。しかし、草丈がどうしても高くなりすぎて風等による倒伏を防ぐ目的でおこなうことはありうる。(摘芯していない場合でも腋芽が多く出てしまう場合は、生産目的で栽培をおこなう場合、腋芽は、必要ないためある程度腋芽をハサミで切り取る作業をする事が出来れば良い綿花の収穫に結び付く。)

大陸棉を栽培する場合、摘芯はコットンボール数を抑制して品質の良い充実したコットンボールが収穫できるようにするためと、倒伏防止に必要な作業で収穫したいコットンボールの数を考えて行う必要がある。具体的には草丈が約90cmになった時に地面から約80cmを残して、頂部の先端から約10cmをハサミで切り取る。

収穫と種子の保存

9月～11月まで株下の方からコットンボールが開いてくるので適宜収穫する。収穫前2～3日晴天または降雨が無い事が望ましい。雨にあたらぬ風通しのよいところに置いてさらに少なくとも10日以上は乾燥させ、綿が腐ったりカビが付いたりしないようにする。

次の年播種する種子は、大きな充実したコットンボールから収穫した種子を選び、直射日光に当たらないようにして風通しのよい所で10～20日乾燥させる。その後紙封筒などに入れ気温5℃以上10℃までくらいの湿気の少ない暗所に保管する。最後に上記、追い播き、除草、摘芯、腋芽除去等の作業頻度については、労働力と生産性のバランスを考えたうえで各人判断して行う必要がある。

収穫後の畑管理

コットンボールを収穫し終わった残りの茎葉部分は、全て抜き取る。抜き取った茎葉部分やコットンボールの殻等焼却をする場合は、事前に管轄する消防署に焼却作業をして良いか確認の連絡をすること。焼却しても良い場合、必ず場所日時、何を燃やすかを伝えること。絶対に1人では、行わないこと。風の無い日を選び、燃え移りや火事につながる心配が無い場所で消火がすぐにできる準備をしてから安全に十分配慮して行うこと。大きく積み上げると火が大きくなり危険なので必ず何回または複数日に分けて行うこと。その場を離れる時は必ず鎮火を確認してからにすること。

焼却する事で茎葉部分等についている害虫の卵や幼虫を越冬させない。できた灰を来年の播種のときや、畑に入れて還元する事もできる。焼却できない場合は、チップperでチップにするか、土中に埋めて処理するのが望ましい。